



日本青年国際交流機構

International Youth Exchange Organization of Japan

## 共通活動

---

### 昭和時代の活動

- 昭和58年～60年 オーストラリア「カウラ募金」
- 昭和58年 西サモア、トンガとの音楽交流
- 昭和57年～昭和62年 マザー・テレサ施設支援活動
- 昭和56年～ボイス・フォーラムの開催
- 昭和47年ビルマの子供たちにエンピツを贈る運動
- 昭和46年韓国身障者施設支援「善意の一坪運動」

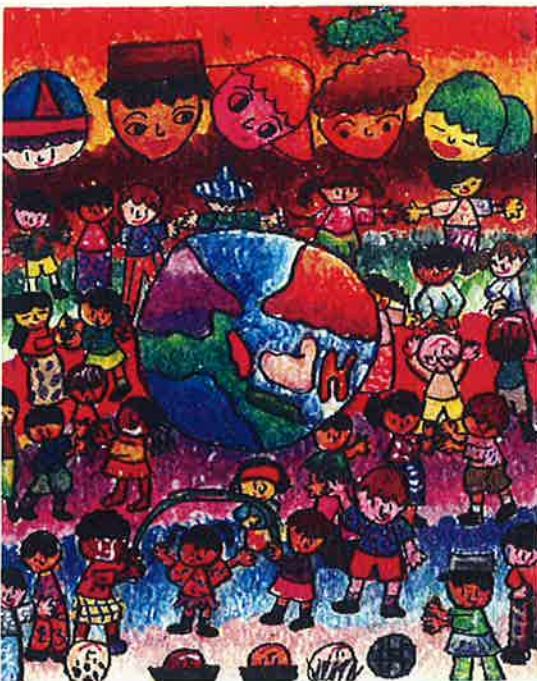
# マザー・テレサ施設支援活動 (昭和57～62年)



第14回「青年の船」事業がインドのカルカッタ(現コルカタ)にあるマザー・テレサ施設を課題別視察で訪問したのをきっかけとして始められた支援活動。活動のねらいは、単なる物資の支援活動ではなく、マザー・テレサ施設のシスター及び協力者たちの社会奉仕活動を紹介していく中で、ボランティアの精神とは何であるのかを考え、学ぶことでした。

第16、18、20回の「青年の船」事業で継続してインドのボンベイに寄付金と品物が送られ、その後は、IYEOが日本のマザー・テレサ施設からフィリピンのトンドにある施設への支援物資の輸送協力依頼を受けて、それらの輸送に係わる諸手続きを行いました。

## アジア子供絵画展(平成6年)



“We are a big Family” Widtya Putri インドネシア

SSEAYPインターナショナル第7回総会が日本で開催されるに当たり、「国際家族年」を記念して開催しました。

東京で開催した後に全国を巡回しました。ASEAN各国でも展示会を開催しました。教育・文化という身近な観点からASEANを紹介することを目的としました。

絵は「東南アジア青年の船」事業参加青年により収集され、その中には、フィリピンのストリートチルドレンの絵も含まれていました。



# 阪神・淡路大震災ボランティア (平成7年)

IYEO大阪のメンバーが中心となり、避難所を一か所約1か月間支援しました。

避難所に派遣するボランティアは全国から募りましたが、日程を調整したうえでIYEOのメンバーが継続的に支援できる方式としました。

---

## 「東南アジア青年の船」事業 25周年記念エッセイコンテスト(平成10年)



エッセイを発表する、  
インドネシア人の  
エッセイ優勝者

「東南アジア青年の船」事業の25周年を記念して、SSEAYPインターナショナルが行ったエッセイコンテストに参加しました。

共通テーマは「21世紀のアジアのリーダーシップ」で、青年の部(大学生及び30才までの青年)と少年の部(中学生・高校生)を設け、全国IYEOから応募を募りました。

青年の部、少年の部ともに多数の応募があり、それぞれの部門で優秀者各1名と佳作を数点選出しました。

優秀者は第25回「東南アジア青年の船」事業の実施の際に日本に招待されました。

# グローバル・フォト・コンテスト (平成16~20年)



GPC2007 (A treasure for our future generations)  
[ Pure Smile ]  
Erika Yamato (Japan)

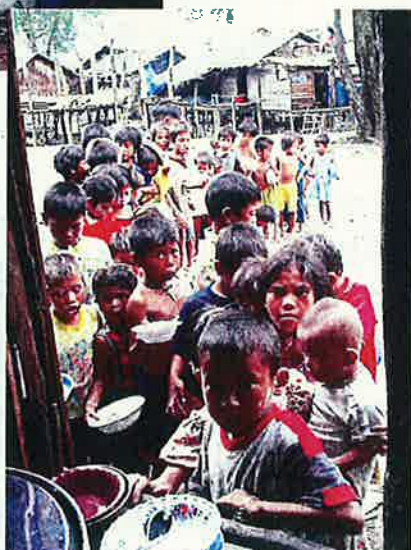
平成16年3月に「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議で話し合われた“芸術イベント”を、具体化させ、「世界青年の船」事後活動組織(SWYAA)の共通活動として行ったのが始まり。

IYEOが取りまとめ、海外への広報及び写真集約については、「世界青年の船」事業事後活動組織(The Ship for World Youth Alumni Association, SWYAA)が協力しています。

第1回は「食のある風景」、第2回は「ストリート・マーケット」、第3回は「微笑みと笑い」、第4回は「次の世代に遺したいもの」をテーマとしました。

各テーマの優秀作品約30点は、グローバル・フォト・パネルとして国内のIYEO支部や世界各国の事後活動組織へ貸し出され、イベントや展示会や説明会等で活用されています。なお、このプロジェクトは、IYEO設立20周年の記念事業の1つとしても位置づけられました。

# スマトラ沖地震復興募金 (平成17年)



スマトラ沖地震による津波の被害を受けた地域のうち、「東南アジア青年の船」事業及び「世界青年の船」事業に参加している、タイ、インドネシア、スリランカの災害復興協力として、募金活動を行いました。

募金は、IYEO会員からだけでなく、第17回「世界青年の船」事業参加者、メキシコ合衆国とアメリカ合衆国の事後活動組織によって集められ、タイの事後活動組織を通じてタイ政府とラオ島モーガン族のための貯水槽プロジェクトへ、スリランカの事後活動組織を通じてスリランカ政府の携わる復興活動に使われました。

# ジャワ島中部地震災害救援募金 (平成17年)

マクロコズムなど会員広報誌を通じて募金を集め、とりまとめた募金を、日本赤十字社本社を通じて寄付をしました。(42640円)

# ミャンマー・サイクロン災害救援金 (平成20年)



ラー・ミン大使にお見舞い金を渡しました。(\$500)  
「東南アジア青年の船」事業・「国際青年育成交流」事業(ミャンマー)の既参加者だけではなく、他事業の既参加者からも被災者のために何かできないかとの意思表示がありIYEOとして募金をとりまとめました。

# スリランカ教育支援プロジェクト One More Child Goes to School(平成20年～)



学校に通うことが困難なスリランカの子どもたち(小学生)を支援するプロジェクト。プロジェクトチームを結成し、2008年から二つの方法で支援を開始しています。

1.学用品等の提供: チャリティー・イベント(ランチ・パーティー、スリランカ紅茶教室等)を開催し、その収益でオリジナルノート等の文房具や学用品を購入し、子どもたちへ提供。

2.奨学金制度(フォスター・ペアレンツ): フォスター・ペアレンツ(IYEO会員等) 53名が、59名のスリランカの子供たちを支援(平成24年現在)。



# サポート・ケニア・プロジェクト (平成20～21年)



2007年12月のケニア大統領選の結果起きた暴動・殺戮が約35万人を超える、という危機的状況に対し、SWYAAケニアのメンバーとともに、IYEOとしてどのような支援が実施できるかを協議して始めました。

第1期緊急支援(US\$2,000)では食糧や毛布をナクル避難民キャンプへ寄附。

第2期支援活動では、旗にスパンコール1個を縫い付けるたびに100円の寄附を募る「五千人針プロジェクト」を全国各地のIYEO会員の協力で実施したり、歌や紙芝居を通じてケニアの現状を伝えたりしました。集まった寄附は2009年8月に第2期支援活動(特に青少年育成に役立つ物資)をナイヴァシャ避難民キャンプへ届けました。

# 世界青年の船の森 植林 (平成20～現在)



2008年1月24日に実施されたチャリティ・ウォークを皮切りとし、様々な場面で「世界青年の船」事業20周年記念Tシャツを頒布。

その収益でインドネシアのバリ州キンタマーニ郡ペネロカン地区に0.3ヘクタール(3,000㎡)の「世界青年の船の森」を植林しました。



## 中国四川省大地震募金 (平成20年)

林櫛参事官に中国四川省大震災被災者にお見舞いを伝え、崔天凱大使へのお見舞いメッセージと、お見舞金10万円をお渡しました。



## チリ大地震募金(平成22年)

寄附先は、内閣府青年国際交流事業「世界青年の船」事業の参加国であるチリの事後活動組織の代表と協議の上、テレトン (Teleton: チリ版、24時間テレビ「愛は地球を救う」のような番組で、チリ国内において国民に支持されているチャリティーイベント) とし、3月25日に送金しました。(10万円)

## 東日本大震災復興支援活動 (平成23年～)



平成23年3月11日起こった東日本大地震の復興支援活動に取り組むため、IYEO東日本大震災募金口座の輸送や、緊急物資の送付活動を、岩手県、宮城県及び福島県の支部と連携して行っています。





募金総額(2012年5月17日現在)

14,262,233円

内訳 団体9,539,704円  
個人4,722,529円

岩手県青年国際交流機構

- ・炊き出し
- ・IYEO縁側カフェ
- ・「東南アジア青年の船」事業事後活動組織 (SSEAYPインターナショナル) 総会(通称SIGA)の社会貢献活動

宮城青年国際交流機構

- ・被災地ツアー
- ・ワンコインdeリフレッシュ(リラックス&リフレッシュ温泉ツアー)
- ・パソコン寄贈

船と翼の会ふくしま

- ・復興支援ぞうきんプロジェクト
- ・国際理解キャラバン隊



東日本大震災復興支援活動  
(一平85)





# 「東南アジア青年の船」事業 事後活動組織 SSEAYP インターナショナル 活動報告



## SSEAYP インターナショナル総会 2012年 第24回 日本(東京)

SSEAYP International Together, Move Forward  
*SI 25th Anniversary Forum*

SSEAYP インターナショナル 25th Anniversary Forum



- テーマ：“SSEAYP International: Together, Move Forward”
- 参加者数：ASEAN（10か国）350名、日本230名
- SSEAYPインターナショナル設立25周年フォーラムを一般公開で開催し、東南アジアで活躍する既参加青年を迎えて、「グローバル社会における人材育成の重要性」をテーマにパネルディスカッションを実施
- 日本の文化、産業、経済、環境等の現状について学ぶ課題別視察（8コース）を実施
- 社会貢献活動として、総会参加者の内、約40名が陸前高田市を訪問し、東日本大震災復興支援活動を実施

# SSEAYP インターナショナル総会

2011年 第23回 シンガポール



- テーマ: “SSEAYP Wave towards a Sustainable Environment “
- 参加者数: ASEAN (9か国) 及び 日本から合計約200名
- 「持続可能環境を作る」をテーマにした基調講演
- シンガポールにおける、環境に関連した先進的な施設を訪問し、治水の歴史、持続可能な水資源供給等について学ぶ課題別視察を実施
- 市民のリサイクルへの意識を高めることを目的として、リサイクル用資源回収の社会貢献活動を全員で実施

# SSEAYP インターナショナル総会

2010年 第22回 タイ(アユタヤ)



- テーマ: “SSEAYP Family @ World Heritage”
- 参加者数: ASEAN 各国及び 日本から合計約400名
- タイ政府、アユタヤ県、日本大使館の全面的協力により開催
- SSEAYPインターナショナル賞の表彰 (SIに貢献のあった個人又は団体に対して3年に1度表彰)
- ASEAN事務総長Dr Surin Pitsuwanを迎えて、各国事後活動組織会長との会議を開催
- 社会貢献活動(小学校での英語リーダーシップキャンプ及び壁塗り作業)を実施

# SSEAYP インターナショナル総会

## 開催年および開催国

年	回	開催国	年	回	開催国	年	回	開催国
1988	1	マレーシア	1998	11	フィリピン	2008	20	フィリピン
1989	2	フィリピン	1999	12	シンガポール	2009	21	インドネシア
1990	3	ブルネイ	2000	13	インドネシア	2010	22	タイ
1991	4	インドネシア	2001	14	タイ	2011	23	シンガポール
1992	5	シンガポール	2002	15	日本	2012	24	日本
1993	6	タイ	2003	-	翌年に延期	2013	25	ラオス(予定)
1994	7	日本	2004	16	マレーシア	2014	26	マレーシア(予定)
1995	8	マレーシア	2005	17	ベトナム	2015	27	ベトナム(予定)
1996	9	フィリピン	2006	18	ブルネイ			
1997	10	ブルネイ	2007	19	カンボジア			

## SSEAYP インターナショナル

## ASEAN 各国事後活動組織による活動





## Persatuan BERSATU

### (ブルネイ)

#### 2011年の主な活動



- 東日本大震災復興支援活動(第1弾)として“Hear for Japan” Projectを実施。日本の被災者への応援メッセージを集め、IYEOを通じて日本へ送った。
- 東日本大震災復興支援活動(第2弾)として「チャリティ・ウォーカラソン」を実施。3,000ブルネイドル(約187,500円)の寄付金を集め、IYEOを通じて寄付。
- 青少年を対象とした、HIV/AIDS啓発活動として、ワークショップを実施。



## SI Cambodia

### (カンボジア王国)

#### 2011年の主な活動



- 東日本大震災復興支援活動として、募金活動を実施。IYEOを通じて日本の被災者へ寄付。
- Kompong Chhnagn州の洪水被災者への復興支援活動として募金活動を実施。
- 2010年度のカンボジア既参加青年を中心に、環境に関する啓蒙活動として、Cycling for Better Environment Projectを実施。高校生を対象とした環境問題についてのワークショップも実施。約80人が参加。



# SI Indonesia, Inc.

## (インドネシア共和国)



### 2011年の主な活動

- 日本と東南アジアにおける、文化、芸術、青少年育成、産業、貿易、科学、技術のあらゆる分野での協力と調和のとれた社会の創造を目指した、JaSeAN Projectを実施。プロジェクトの一環として、無料の雑誌の発行、国際的なパネルディスカッション、植樹、スポーツ交流、JaSeAN祭りなどを開催。

### ● 2011年度日本国外務大臣表彰を受賞

「同事業の準備から実施・事後フォローアップに至るまで20年以上にわたり、当国青年・スポーツ国務大臣府と協力し、同事業の円滑な実施に大きく貢献している団体」として表彰を受けた。鹿取克章大使よりSIインドネシア会長へ表彰状が渡された。



# KABESA (SI Malaysia)

## (マレーシア)



### 2011年の主な活動

- マレーシア国際通商産業省主催の、APEC 経済圏の若者の起業家精神の育成と新規ビジネスの立ち上げを促進するプログラム Young Entrepreneurs' Summit 2011実施に協力。マレーシア国内外の既参加青年約40名を含む約530名が参加。



### 2010年の主な活動

- マレーシア青年スポーツ省主催の、Malaysia International Youth Programme 2011実施に協力。“Culture in Safety”をテーマに、ASEAN各国、日本、英連邦各国の18か国から青年役90名が参加し、犯罪の解決方法などについてディスカッションを行った。



## SSEAYP International Philippines, Inc.

### (フィリピン共和国)



#### 2011年、2012年の主な活動

- フィリピン既参加青年の事後活動として、貧困層が生活する地区で、机や椅子、書籍を備えたコミュニティセンターを建設。2010年度の既参加青年は教育省と共同して、2つのセンターを建設。2011年度の既参加青年は Zamboanga市との協賛でセンターを建設。



#### 2010年の主な活動

- 2009年度の既参加青年の事後活動プロジェクト “i-care project”の一環として、Cordillera行政区の学生や生徒を対象に、フィリピンの国民としての責任感を育てることを目的としたリーダーシップ研修を実施。



## SSEAYP International Singapore (SIS)

### (シンガポール共和国)



#### 2012年の主な活動

- 駐シンガポール日本国大使表敬  
SISシンガポールの役員が鈴木庸一大使を表敬訪問し、事業開始以来の継続的实施に対する感謝を伝えた。(2012年4月)
- SSEAYP Road Showとして、「東南アジア青年の船」事業の広報活動を実施



#### 2011年の主な活動

- 平成23年度の「東南アジア青年の船」事業シンガポール国内活動に協力いただいたホストファミリーへの謝恩会を開催
- 2010年度の既参加青年による事後活動プロジェクトとして、Ang Mo Kio 団地の清掃活動を実施。80名以上がボランティアとして参加し、入居者の部屋の片付けサポートを実施



# ASSEAY Thailand (SI Thailand)

## (タイ王国)

### 2012年の主な活動

- タイ既参加青年が1991年から始めた、社会的に恵まれない環境にあるタイの子どもたちを対象にした青少年育成キャンプ“For Hopeful Children Project”を1000人規模で実施



### 2011年の主な活動

- 東日本大震災の発生を受けて、SIタイの役員が、駐タイ王国小島正治大使を表敬訪問し、追悼の意を述べた。
- 東日本大震災復興支援活動として、“Thai-Japan Birds of Friendship Project”を立ち上げる。“ASEAN-Japan Birds of Friendship Project”として発展し、各国事後活動組織が復興支援活動をする際に使用できる、共通のプロジェクトロゴを作製した。タイでは、Tシャツの頒布や募金活動により、合計6,220USDをIYEOを通じて寄付



# Lao SSEAYP Alumni Association (LSAA)

## (ラオス人民民主共和国)

### 2012年の主な活動

- 2011年度の既参加青年の事後活動プロジェクトとして、首都ビエンチャンの高校生を対象に、HIV/AIDS予防啓発ワークショップ“I Know, You Know, We Know Project”を実施



### 2011年の主な活動

- 東日本大震災やラオス国内で発生した洪水の被災者への募金活動を実施。
- 2009年度、2010年度の既参加青年を中心に、Champasack県での社会貢献活動や、国立ラオス大学でのHIV/AIDS予防啓発活動を実施。





## Vietnam Alumni Club of Youth Friendship Exchange Programs (VACYF)

(ベトナム社会主義共和国)



### 2012年の主な活動

- 2011年度の既参加青年を中心に、“Join Hands to Share the Smile”プロジェクトを実施。協賛、募金活動で得た約4,000USドルを資金として、ベトナム南西部と南部の学校(2校)に対して、文房具や衣類、書籍、本棚を寄贈したほか、30名に対する奨学金を授与。



### 2011年の主な活動

- 2010年度の既参加青年を中心に、“Giving books for underprivileged children in rural areas”プロジェクトを実施。1200冊の本の寄贈のほか、5人の優秀な生徒へ奨学金を授与。



***The Ship for World Youth Program Alumni  
Association (SWYAA)***

**「世界青年の船」事後活動組織 活動報告**



**第1回 SWYAA 国際大会**

**2007年 ギリシャ開催**



- 16か国から47名が参加
- アテネ市と協力して環境啓蒙活動の実施
- ギリシャ山火事のためのチャリティー・オークションを実施、復興支援として役立てた  
(収益金:850ユーロ)

## 第2回 SWYAA 国際大会

2008年 日本開催



- 9か国から50名が参加
- 「持続可能な社会」や「青年とコミュニティ」をテーマにボランティア活動を実施



- チャリティー・オークションを実施、スリランカの教育支援とケニアの国内避難民支援に役立てた（収益金：93,040円）

## 第3回 SWYAA 国際大会

2009年 オーストラリア開催



- 6か国から27名が参加
- 社会貢献活動をテーマに課題別視察とディスカッションを実施
- チャリティー・ディナーを実施、子どものメンタルヘルスの研究のための基金に寄附をした（収益金：3,480豪ドル）

## 第4回 SWYAA 国際大会

2010年 エジプト開催



- エジプト政府の全面的な支援を受けて開催
- 24か国から180名が参加
- 社会貢献活動をテーマに課題別視察とディスカッションを実施

## 第5回 SWYAA 国際大会

2011年 メキシコ開催



- 15か国から69名が参加
- メキシコ政府外務大臣による講演「青年の外交における重要性」
- 連邦議会議員との懇談
- 社会貢献活動をテーマにディスカッションを実施

## 各国の活動



## オーストラリア



- 東日本大震災の復興支援に協力して、各地域でチャリティイベント開催
- ダーウィンで実施したチャリティ・コンサートとおにぎりワークショップを実施  
(9,000豪ドルの寄附)

## オーストラリア



- 東日本大震災の復興支援に協力して、各地域でチャリティイベント開催
- アデレードでカップケーキを300個販売（1,000豪ドルの寄附）

## オーストラリア



- 世界各国の既参加青年から本を集め、フィジーの村へ寄附
- フィジーの村では、既参加青年の協力で図書館を建設し、1,000人以上の村人に図書を利用してもらえるようになった(2011年)

## バーレーン王国



- バーレーン王国で初めて認可された青少年団体として活動
- 湾岸諸国の恵まれない人たちへの支援活動として、衣服や食糧を寄附(継続実施)

## バーレーン王国



- 在バーレーンの日本人会のメンバーと協力して、知的障害者支援施設を訪問し、折り紙などを教える活動を実施
- 手話の勉強会に参加し、障害を持つ人たちとの交流を目指す(継続実施)

## バーレーン王国



- 児童養護施設を訪問し、子どもたちとの交流活動を実施（継続実施）



## バーレーン王国



- 手話の勉強会に参加し、障害を持つ人たちとの交流を目指す（継続実施）

## バーレーン王国



- 日本大使館との関係強化、文化イベントに協力
- 天皇誕生日へのイベントや、大使との昼食会に招かれた(継続)

## バーレーン王国



- 日本大使館主催のイベントに協力(継続)
- 在バーレーンの日本人家族と文化交流、ホームビジットなどを企画
- 日本語クラスに参加



## ブラジル連邦共和国



- 「世界青年の船」事業での学びをいかして、地元で平和教育プログラムを実施
- 15～17歳の青少年45人が参加した（2006年）

## ブラジル連邦共和国



- ブラジル各地で同じ日に献血、既参加青年のみならず、家族や友人を連れて献血キャンペーンを実施（2011年）

## カナダ



- 東日本大震災の復興支援に協力して、10,000カナダドルを寄附
- 2005年のスマトラ島沖地震・津波の被災者のための募金活動実施



## カナダ

*A Heartfelt Thank You to the Ship  
For World Youth Program*



*Domo arigato gozaimasu*

- 「世界青年の船」事業実施に対する日本政府に対する感謝の気持ちと、事業が与えた影響を本にまとめた
- 世界各国89名の声が集まった



## チリ共和国

- Infocap という団体と協力し、貧しい人々に対する技術訓練所でボランティアで指導 (2010年)



## チリ共和国

- Dance for Fun というイベントを実施、貧しい子どもたちに無料で踊りを教え、人生を楽しむ機会を提供



- 「世界青年の船」事業で学んだ各国の踊りを披露した (2010年)

## コスタリカ共和国



- 東日本大震災の復興支援に協力して、コスタリカ政府主催のイベントでブースを担当
- 浴衣の着付け体験やジュースなどの販売で募金を集めた  
(2,000米ドルの寄附)

## コスタリカ共和国



- 恵まれない子どもたちにカメラの使い方を教え、子どもたちが撮った写真で展覧会を実施
- 子どもたちの内面を見つめさせ、創造力を高めるこの活動はインド、シンガポール等に広がった  
(2004年開始)

## コスタリカ共和国



- Teleton の活動に協力、小児病院建設のために募金活動を実施(2004年)

## エクアドル共和国



- 東日本大震災の復興支援に協力して、Taller Japon という日本文化を教えるワークショップを実施(1,050米ドルの寄附)



## エクアドル共和国



- 大火傷を負ったものの経済的に治療を受けられなかった少年のために寄附を募り治療を受けさせた(2009年)
- 視覚障害者支援学校の運営基金を集めるキャンペーン実施

## エクアドル共和国



- 日本大使館が主催した、日本とエクアドル外交樹立90周年のイベントでブースを担当
- 様々な活動が認められ、日本大使館より表彰を受ける(2009年)

## エジプト・アラブ共和国



- 東日本大震災の被災者に対する応援メッセージを集めて日本大使館に届けた

## エジプト・アラブ共和国



- 日本大使館の協力を得て、Japanese Child Fun Day というイベントを実施
- 50人以上の子どもたちに対し、着物の着付けや折り紙など日本の文化を教えた（2011年）

## エジプトとギリシャの共催



- オリンピックでボランティアをしたギリシャの既参加青年がギリシャの小学校とエジプトの小学校で「国際理解と世界平和」をテーマに授業を実施
- エジプトとギリシャの小学生の間で文通が始まった(2005年1月)

## エジプトとギリシャの共催



- 前述の授業を受けた子どもたちが、4月の学校開放のイベント(オープンスクール)で既参加青年の協力のもと、日本ブースを担当し、日本文化を披露
- 6月には既参加青年が開催したアートギャラリーで、同じ子どもたちが着物について展示し、日本文化を紹介した



## ギリシャ共和国



- 東日本大震災を受けて、日本人既参加青年がギリシャの子どもたちに現状を報告、子どもたちから東北へ応援メッセージが届いた
- 震災の被災者の冥福を祈り、小原流のギリシャ副代表である既参加青年が追悼のいけばな展示会を実施

## ギリシャ共和国



- 「世界青年の船」で日本参加青年が実施した「ピース・カフェ(平和セミナー)」の体験をもとにギリシャの大学で同セミナー開催
- 「核兵器と原子力」をテーマにディスカッションを実施、学生に大きな影響を与えた(2010年)

## ギリシャ共和国



- 「世界青年の船」事後活動組織の共通活動である「ホームステイ+1」を実施、ギリシャでホームステイをした日本人既参加青年が、小学校で日本文化を紹介したり、スカウトの活動で日本文化を紹介した(継続実施)

## フィジー共和国



- 障害者支援施設の敷地の清掃活動を実施(2006年)
- オーストラリアの既参加青年と協力して、ラウトカ小児病院の長期入院患者のための慰安物資を提供、病院の設備充実に貢献(1997年より継続)

## フィジー共和国



- ニュージーランドの既参加青年と協力して、学校のIT環境充実のための活動実施 (2008年)



- スリランカの教育支援活動の影響を受け、寄附を募り、経済的に恵まれない子どもたちが学校へ行けるように支援する活動を開始 (2009年)

## フィジー共和国



- ラミ高等学校で、リーダーシップについてのセミナーを実施
- 地元の青少年と植林活動を実施



## フィジー共和国



- フィジー既参加青年がミス・ハイビスカス(美人コンテスト)のフィジー代表に選出された
- 優勝スピーチで、地球と海の環境保護について話した

## フィンランド共和国



- 日本人既参加青年がJOCV派遣でスラムで実施した青少年育成活動が実を結び、音楽グループ(OYAシスター)が西アフリカ音楽フェスティバルで優勝
- その後の海外遠征で、フィンランドの既参加青年が受け入れをし、ヘルシンキ公演が実現した(2004年)

## インド



- 東日本大震災の被災者に対するスラムの子どもたちからの応援メッセージと千羽鶴を日本大使館に届けた
- 50人の子どもたちが大使館を訪問

## インド



- ガンジーの非暴力と平和の遺志を引き継いで、「平和教育」を実施
- 上智大学、東京外国語大学などで講演
- 同大学の生徒をインドで受け入れ（2009年より継続）

## インド



- 経済的に恵まれないスラムの子どもたちに教育の機会を提供する「オープン・スクール」を実施
- 1,020人の子どもたちにコミュニケーションスキルや日本語基礎を教える授業を実施  
(2010年より継続)

## インド



- 経済的に恵まれないスラムの子どもたちに「絵画ワークショップ」を実施
- 64人の子どもたちが芸術に触れる機会となった  
(2008年より継続)

## ケニア共和国



- ナイロビでジャパン・アフリカン・フェスティバルを日本大使館と共催
- 日本人既参加青年が送ったプレゼントを200人の子どもたちが受け取った（2000年）

## ケニア共和国



- HIV/エイズ予防のためのワークショップを実施

## ケニア共和国



- 1月18日を「世界青年の船記念日」とし、その日に社会貢献活動を実施
- 児童養護施設を訪問し、施設の清掃、食事の提供、児童との交流などをした(継続)

## ケニア共和国



- 2007年に起きた暴動により避難民となった人々のキャンプで、日本人既参加青年の協力のもと、支援活動を実施
- 第1回目はナクルキャンプで食糧や毛布を寄附
- 第2回目はナイヴァシャキャンプで食糧や学用品を寄附





## ケニア共和国

- 第22回「世界青年の船」事業のケニア代表青年がボランティアで運営するスラムの学校に、日本人既参加青年が協力して、学用品の支給、机とベンチの提供などをし、継続的に支援（2010年より継続）



## モーリシャス共和国



- 「世界青年の船」事業で来日した既参加青年が、日本の団体が実施しているキャンドル・ナイトの活動に感銘を受け、モーリシャス政府に働きかけ、国のイベントとして「アース・キャンドル・ナイト」を実施（2008年より複数回）

## モーリシャス共和国



- 既参加青年が代表の一員を務める団体で、若者がリーダーシップを発揮し、差別の無い国を目指す活動を実施  
(2006年より複数回)

## メキシコ合衆国



- 2人の既参加青年が協力して、富裕層から不要となった物を回収、経済的に苦しむ人々のもとへ運び、無料で配布した
- 2005年～2011年の期間で10,000人を超える人々が恩恵を受けた

## メキシコ合衆国



- 「世界青年の船」事業でカナダの代表青年が実施している活動に影響を受け、メキシコでスポーツを通じた青少年育成活動を実施、23,000人を超える子どもたちを指導
- 国連のミレニアム開発目標の活動としても認められた

## メキシコ合衆国



- 他団体と協力して「グリーン・ベルト・メキシコシティ」の活動を実施、約90名が参加(うち20名が既参加青年)
- 2007年より実施、1万本の植林を目指す

## メキシコ合衆国



- 3週間の青少年育成プログラム、「Back on Board」を実施
- ボランティア精神、異文化理解、社会貢献活動に対する啓蒙プログラムに合計315人が参加、様々な活動に取り組んだ(2009年)

## メキシコ合衆国



- 児童養護施設の訪問(継続実施)
- 経済的に貧しい子どもたちにボランティアで英語教育を実施(継続実施)

## ニュージーランド



- ニュージーランドに在住するトンガの若者に、自己認識やアイデンティティの確立、技術提供の機会などを目的とした6週間の集中講座を実施(2005年)

## オマーン国



- 東日本大震災の復興支援への協力として、日本大使館に働きかけ、「ソリダリティー・ウォーク」とバザーを実施、Tシャツ等を頒布し寄附を集めた(15,000米ドルの寄附)

## オマーン国



- 日本大使館との関係強化、文化イベントに参加・協力
- 天皇誕生日へのイベント等に招かれた

## ソロモン諸島



- 日本大使館との関係強化
- 「ソロモンの青年を元気にする活動」として、クリーン・アップ・キャンペーンなどを実施

## ペルー共和国



- 既参加青年が勤める学校の生徒より、東日本大震災の被災者に対する子どもたちからの応援メッセージと千羽鶴が届けられた

## ペルー共和国



- 「世界青年の船」事業の精神を引き継いで、「世界青年のバス(Bus for World Youth)」を実施
- 6か国から25名の既参加青年が自費参加、2週間にわたり、ペルー各地の貧困地区などでボランティア活動を実施(2010年)

## ペルー共和国



- 「世界青年の船」事業に参加するための事前研修として貧困地区の学校等を訪問し、ボランティア活動を実施、500人の子どもたちに食糧を提供



事業終了後はこのような社会貢献活動にかかわることを義務付けている

## ペルー共和国



- 「世界青年の船」事後活動組織の共通活動である「ホームステイ+1」を実施、ペルーを訪れた日本人既参加青年と共に経済的に貧しい人々への物資支援をした



## ペルー共和国



- 知的障害を持つ児童の養護施設を訪問し、クリスマスイベントを実施
- 日本人の既参加青年が折り紙を教えたり、クリスマスランチとプレゼントを提供などをした  
(2010年より継続)

## ペルー共和国



- A Day of Hope というHIV/エイズに感染した子どもたちの生活の質の向上を目指す団体に協力、技術指導などのボランティア活動を実施
- チャリティ・コンサートで集めた募金を寄附(約1,500米ドル)

## ペルー共和国



- 日本大使館が主催する様々なイベントに継続的に協力
- 活動が認められ、日本大使館より表彰を受ける  
(2010年)

## スペイン



- 東日本大震災の復興支援に協力して、既参加青年が主宰する日本語学校「ニッポニア」で募金活動を実施、生徒の協力で千羽鶴が折られ、日本に届けられた  
(約2,000ユーロの寄附)

## スリランカ社会民主主義共和国



- スマトラ島沖地震後の津波の影響で被害を受けた地域で、政府と共に災害復興活動に貢献
- 世界各国の「世界青年の船」事後活動組織からの寄附で、図書館の建設と子どもたちへの学用品を提供  
(2005年開始)

## スリランカ社会民主主義共和国



- 前述の活動を発展させ、One More Child Goes To Schoolという教育支援プロジェクトを継続的に実施
- 第24回「世界青年の船」事業でチャリティイベントを実施、パソコン2台を寄附した

## スウェーデン王国



- 北欧のネットワーク強化を目的とした、ノルディック・リユニオンを開催
- 25人の既参加青年が各国から自費で集まり交流を深めた

## トンガ王国



- 日本人コミュニティとの関係を深め、JICA主催の「ジャパン・フェスティバル」でブースを担当、トンガの高校生に日本の生活や文化について説明

## トンガ王国



- トンガの土壌浸食と環境問題に注目し、カッサバ芋の有機農業を開始（2010年）

## トルコ共和国



- 東日本大震災の復興支援に協力して、「寿司ワークショップ」を開催し、募金活動を実施
- 6回のワークショップに合計88人が参加（161,000円の寄附）

## トルコ共和国



- 「世界青年の船」事後活動組織の共通活動である「ホームステイ+1」を実施、トルコを訪れた日本人既参加青年が、大学や小学校で日本文化について教える「ジャパン・カフェ」を実施（2011年）

## アラブ首長国連邦



- UAE政府や企業の協賛も得て参加費無料で開催
- 2000年 約80名参加
- 2001年 約50名参加
- 2002年 約90名参加  
UAE皇太子殿下御出席
- 2003年 地元青少年団体からも参加者を募集し、広く青年交流活動を実施

## 英国



- 2名の既参加青年が英国よりモンゴルへ救急車を運転して運びモンゴルの医療機関へ寄附(2011年)



## アメリカ合衆国



- 経済的に恵まれない人々が寒い冬を過ごせるように、Hats and Gloves Projectとして帽子と手袋を集めて贈った(2004年)



## バヌアツ共和国



- 「世界青年の船」事後活動組織の共通活動である「ホームステイ+1」を実施、バヌアツを訪れた既参加青年が、公立学校の教員を3ヶ月間支援するボランティア活動等を実施（2010年に3回）

## ベネズエラ・ボリバル共和国



- 日本大使館が主催する「日本週間(ジャパンウィーク)」等のイベントに協力(継続)





## ベネズエラ・ボリバル共和国



- 2007年に日本大使館と共催で、書道を教える活動を実施、50人の子どもたちが参加
- その後も養護施設の児童に書道を教える活動を継続的に実施

## ベネズエラ・ボリバル共和国



- 日本大使館が実施した植林イベントに、既参加青年と事後活動組織のボランティアが協力し、1,200本以上の木を植えた(2011年)

## ベネズエラ・ボリバル共和国



- 日本大使館の協力を得て、13の高校で「持続可能な発展のための会議」を開催、約200人の高校生が参加し、ディスカッションをした（2010年）

## ベネズエラ・ボリバル共和国



- 「世界青年の船」事業に参加するための事前研修として養護施設等を訪問し、ボランティア活動を実施
- 事業終了後はこのような社会貢献活動にかかわることを義務付けている

## イエメン共和国



- 日本大使館の日本語学校の運営やイベント実施に協力

## イエメン共和国



- イエメン各地で同じ日に献血、既参加青年のみならず、家族や友人を連れて「Save More Lives」をスローガンに、献血キャンペーンを実施（継続実施）

## イエメン共和国



- 環境問題に対する市民への啓蒙活動として、SWY-350というセミナーを開催（2010年）

# 「国際青年育成交流」事業 既存参加青年 活動報告



## ドミニカ共和国派遣団

2011(平成23年)6月9日(ドミニカ共和国大使館)

ドミニカ共和国名産のコーヒーを被災地の避難者に提供を受ける



- 東日本大震災被災地支援をする、岩手青年国際交流機構「IYEO縁側カフェ」プロジェクトに対し、駐日ドミニカ共和国大使館から名産のコーヒーの提供を受けた

# ドミニカ共和国派遣団

2011(平成23年)11月3日

ロドリゲス青年大臣の来日歓迎昼食会



- 青年省は、例年の表敬訪問先。
- 平成23年9月に訪問した日本派遣団も、ロドリゲス青年大臣への表敬訪問を行った。
- 日本青年国際交流機構(IYEO)より会長を始め、総勢18名が参加。

# バルト三国派遣団(ラトビア)

2011(平成23年)3月2日

ラトビア教育科学省次官との懇談(ラトビア大使館)



中央:教育省次官、右端:ラトビア大使

- ラトビアで内閣府青年国際交流事業を担当している教育科学省のマレクス・グルシュケヴィッツ次官と懇談
- ラトビア大使からの御招待によるもの
- 平成18年～平成21年度までラトビアに派遣された、すべての年度から団員等11名参加。

# バルト三国派遣団(リトアニア)

2010(平成22年)9月30日

リトアニア大使を表敬訪問(リトアニア大使館)



- リトアニアから帰国した参加青年とともに、日本青年国際交流機構(IYEO)会長を始めとするOBBOGがリトアニア大使を表敬訪問
- リトアニアでの経験を通じて、事業から得た成果を報告した
- 帰国後の活動についても紹介。リトアニアとの友好促進に向けて、大使館の御支援を得ながら、継続していくこととした。

# バルト三国派遣団(エストニア)

2011(平成23年)8月30日(尾上部屋)

把瑠都関(エストニア出身)を訪問



- バルト三国派遣団OBBOGが企画し、エストニアへの出発を控えた派遣団から2名が参加。
- エストニア国内で予定されている、交流活動のため、番付表を把瑠都関いただき、出発に備えた。
- バルト三国との友好交流活動に力をいれるとともに、これから事業を経験する方へのよりよい機会の提供を行った。

# ヨルダン派遣団

2011(平成23年) 10月21日

ヨルダン代理大使を表敬訪問(ヨルダン大使館)



- ヨルダンから帰国した参加青年とともに、日本青年国際交流機構(IYEO)会長を始めとするOBOGがヨルダン代理大使を表敬訪問
- ヨルダンでの経験を通じて、事業から得た成果を報告した
- 帰国後の活動についても紹介。ヨルダンとの友好促進に向けて、大使館の御支援を得ながら、継続していくこととした。

# ラオス派遣団

2012(平成24年) 5月11日

ラオス大使館表敬訪問



- ラオス大使館、在日ラオス人と日本人既参加青年などで連携してできる活動について御相談
- 大使館より、留学生協会会長を紹介していただき5月19日のラオスフェスティバルでラオス人留学生との協働を行う。



# 日本・中国青年親善交流事業

2006(平成18年) 7月

山形県関地区と友好親善の盟約を結ぶ

中国吉林省琿春市三家子満族郷を34名が訪問。



- 平成10年度に、中国青年代表団の受入を山形県米沢市関地区で実施
- その際の団員で、その後中国大使館一等書記官を務めた方から、中国北京での再会を熱心に勧められ、翌年、初めての中国スタディツアーの実施
- その後も、中国人留学生や児童絵画の交換展示会、中国大使館訪問、中国青年代表団の受入れ等民間レベルの交流を継続。
- その活動を進展させるため、平成14年度には第2回スタディツアーを実施し、吉林省琿春市三家子満族郷と米沢市関地区との間で、全国的にも珍しい友好親善地区提携盟約締結を行い活動を現在まで継続。

# 集車踏空善團平青國中-本目

凡在青島居住者

凡在青島居住者

凡在青島居住者

凡在青島居住者

凡在青島居住者

凡在青島居住者

凡在青島居住者

凡在青島居住者

凡在青島居住者

凡在青島居住者

凡在青島居住者



## 「日本・韓国青年親善交流」事業 日韓交流連絡会議 活動報告



●事業に参加した既参加青年たちが、国際青年交流活動で得た経験や国際感覚をいかし、世代を超えて新しいネットワークを構築しながら、自ら行うべき社会貢献活動や、地域活動を模索し、実行

●1年1度日本または韓国で開催

## 第6回日韓交流連絡会議(日本)



●日韓両国の青年が2泊3日の国際交流プログラムを企画

●毎年60名を超える日韓の青年が参加

●同窓会にとどまらず、世代を超え、常に新しいネットワークを広げている



# 第8回日韓交流連絡会議(韓国)

## 2017 日韓交流連絡



●韓国女性家族部からイ・ハング事務官参加

●昨年度の連絡会議の中で企画したプログラムの報告

●日韓の青年が取り組むべき社会貢献活動のアイデアを出し合うディスカッション

●アイデアを出すだけでなく、自分たちが実際に活動できるように、具体的なアクションプランを作成

## 日韓交流連絡会議で青年が企画し実行しているプログラム



### 日韓創作料理交流会

日本に住んでいる韓国青年との交流を兼ねた日韓創作料理交流会

事業未参加の方も招いて交流活動の楽しさを伝える

### 留学生支援プログラム

メーリングリスト等を通じ、留学生の相談に乗ったり、交流プログラムを企画し、交友関係を広げている

## 青年社会活動コアリーダー育成プログラム

### ***Young Core Leaders of Civil Society Groups Development Program***

1

---

## 既参加青年の活動

### 表彰

- 2012年度「女性のチャレンジ賞」(男女共同参画局)  
(2009年度英国(高齢者分野)派遣者 岩岡ひとみさん)
- 2012キャリア教育アワード経済産業大臣賞  
(NPO法人 日本アントレプレナーシップ アカデミー(JAE)、  
2007年度英国、2009年度ドイツ、2010年度ドイツ(いずれも  
青少年分野)派遣者所属)

2

## 既参加青年の活動

### 非営利活動団体の立ち上げ、新規事業所の開設①

- 青年育成活動団体(広島県、2009年ドイツ(青少年分野)派遣者)
- 高次脳機能障害者支援団体(広島県、2004年アメリカ合衆国(障害者分野)派遣者)
- 児童デイサービス(島根県、2008年英国(高齢者分野)派遣者)
- 訪問看護・介護事業(島根県、2008年英国(高齢者分野)派遣者)

3

## 既参加青年の活動

### 非営利活動団体の立ち上げ、新規事業所の開設②

- 認知症グループホーム(スタッフの一部が障害当事者)(島根県、2009年英国(高齢者分野)派遣者)
- 障害児の「きょうだい」支援(島根県、2008年英国(高齢者分野)派遣者)
- 障害児を抱える一人親家庭の支援(島根県、2008年英国(高齢者分野)派遣者)
- 被災者支援の会(岩手県、2010年ニュージーランド(障害者分野)派遣者)

4

# 既参加青年の活動

## 多業種連携①

- 高齢者・障害者への入浴美容ケアの講習会の実施  
(2009年以降、全国各地で継続実施)  
(2009年度英国(高齢者分野)派遣、2009年度フィンランド(障害者分野)派遣者、2008年ニュージーランド(障害者分野)派遣者を中心に)
- 福祉従事者ネットワークの確立  
(2010年度ドイツ(高齢者分野)派遣者、2011年度デンマーク(高齢者分野)派遣者を中心に)

5

# 既参加青年の活動

## 多業種連携②

- フィリピン・スタディツアーの実施(専門学校でのボランティア活動)  
(2009年度英国(高齢者分野)派遣者を中心に)
- タイのスラム街での物資支援活動(広島靴メーカーとの共同事業)  
(2009年度ドイツ(青少年分野)派遣者を中心に実施)
- 東日本大震災での被災地支援活動  
(被災地出身者と被災地外在住者の連携で、支援物資調達・配布、医療業務・カウンセリングの実施など多数)  
(全派遣年度・分野)

6

# 既参加青年の活動

## 専門機関誌への派遣報告・事後活動掲載①

Society for All(日本障害者協議会)

2008年度ニュージーランド(障害者分野)派遣者

2009年度フィンランド(障害者分野)派遣者

2011年度ニュージーランド(障害者分野)派遣者

ノーマライゼーション(日本障害者リハビリテーション協会)

2011年度ニュージーランド(障害者分野)派遣者

ニュージーランド・ノート(東北公益文化大学)

2011年度ニュージーランド(障害者分野)派遣者



# 既参加青年の活動

## 専門機関誌への派遣報告・事後活動掲載②

弱視教育(日本弱視教育研究会)

2009年度フィンランド(障害者分野)派遣者

日本看護学会論文集「地域看護」(日本看護協会)

2009年度英国(高齢者分野)派遣者

薬理と治療(JPT)(ライフサイエンス出版)

2009年度英国(高齢者分野)派遣者

福祉新聞(福祉新聞社)

2011年度ニュージーランド(障害者分野)派遣者

ニュートップL(エヌ・ジェイ出版株式会社)

2008年度ニュージーランド(障害者分野)派遣者





## 既参加青年の活動

### 学会発表

(2009年度英国(高齢者)派遣者を中心に)

日本看護学会地域看護学(2010年)

「英国の終末期ケアを支える地域社会システムと多職種連携」

日本老年看護学会 第15回学術集会(2010年)

「地域で支える生きがいのある高齢者の生活」

第15回日本看護管理学会年次大会(2011年)

「被災地における救護活動を通じたマネジメントの一考察」

第11回CRCと臨床試験のあり方を考える会議(2011年)

「マネジメントから考えるCRCのあり方」



9

## 既参加青年の活動

### 講演会、講義の実施①

- 障害青年フォーラム(2012年8月実施予定、2011年度ニュージーランド(障害者分野)、2011年度デンマーク(高齢者分野)派遣者)
- 神奈川脳外傷リハビリテーション講習会(2010年1月、2009年度フィンランド(高齢者分野)派遣者)
- 市民社会をつくる ボランティアフォーラムTOKYO2009(2009年2月実施、2007年度スウェーデン(高齢者分野)派遣者)

10

# 既参加青年の活動

## 講演会、講義の実施②

- 福祉ボランティアリーダー講座(2006年以降毎年1回、2006年度デンマーク(高齢者分野)派遣者)
- 社会福祉・地域福祉大会での講演(2007年以降毎年数回2006年度デンマーク(高齢者分野)派遣者)
- 医療福祉専門学校での特別講義(2007年以降複数回、2006年度デンマーク(高齢者分野)派遣者)
- 『SOS！日本の子ども達の心を救うユースワーク』(2010年5月実施、2009年度ドイツ(青少年分野)派遣者)

11

# 既参加青年の活動

## 海友会(和歌山県IYEO)とオーストリアでの 独自交流事業の継続実施(青少年分野)

- 訪問先・受入先で青年の合宿セミナー
- 文化体験、ホームステイ



2007年 和歌山へ招へい

2008年 オーストリアへ派遣

2009年 和歌山へ招へい

2010年 オーストリアへ派遣

2011年 (東日本大震災の影響を考慮して延期)

2012年 和歌山県で受入



12

## 既参加青年の活動

「高齢者福祉を考える会」スタディツアー

(2006年度デンマーク(高齢者分野)派遣者を中心に実施)

- 高齢者支援に取り組む団体での意見交換・報告会の実施

2007年 静岡県御前崎町、福井県福井市

2008年 福島県鮫川村(あぶくまネット)

2009年 韓国ソウル市・城南市、静岡福祉大学

2010年 京都府京都市(在日コリアン デイサービス)

2011年 (東日本大震災の影響で日程がとれず延期)

2012年 2006年度デンマーク招へい団長とセミナー開催  
福島県鮫川村(9月予定)

13

## 既参加青年の活動

### 海外

- 年1回の情報交換会(英国・ドイツ持ち回り)
- 新招へい者との日本の各分野についての勉強会(英国、ドイツ、デンマーク、ニュージーランドなど)

14

# 煙舌の平育賦巻頭

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が繰り返されています。これは複製または印刷の誤りによるものと推測されます。）

# 煙舌の平育賦巻頭

（右側）

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が繰り返されています。これは複製または印刷の誤りによるものと推測されます。）